

◇ 近年の葉たばこは、糸状菌(疫病・赤星病・灰色かび病等)による病害発生で大きな減収となっております。
 対策については、まず第一に病害が発病しにくい環境(耕種的防除)に管理する。第二に早めで効果的な薬剤防除の実施。

1. 耕種的防除について

耕種的防除が基本 + 農薬は補助的に まずは排水対策の徹底

- ①排水対策の徹底 … 排水溝を点検し、滞っているところは補修する。(枕地2~3メートル周辺) → 疫病菌は水中で急激に増殖
 梅雨入り前には、排水溝へ流れた土砂は除去する。雨の日はほ地点検の見回りを実施する。
- ②疫病が発病したら、雨天、曇天日の収穫は控え、朝露等に濡れた葉でなく、乾いた葉を収穫する。… 疫病の拡散防止
 疫病を発病させないよう、リビングマルチを播種する。 ※例年6月中旬に初発するため、収穫により掻上げできる早作を作る。
- ③ほ地内外の衛生管理徹底 … 摘芽したわき芽や除去した葉等の残渣は必ずほ地外に持ち出す。 → 疫病・灰色かび病等
- ④作業は病害(疫病)の発生していないほ地から順次行い、作業後は必ず作業機の洗浄を行う。… AP-1は病気をうつしやすい
- ⑤病原菌の寄宿主植物を無くすため、ほ地周辺の雑草を刈り取る。… たばこ黄斑えそ病対策としてアブラムシも防除する。



ユニフォーム粒剤株元散布

2. 薬剤防除について

上手な散布方法は？ 敵を知り早めの散布が大切(予防対策)

- ①薬剤の使用にあたっては「農薬使用基準」をしっかりと確認し、遵守する。… リドミル粒剤とユニフォーム粒剤は同一剤型
- ②薬剤の性質を理解し、状況に応じた農薬を使用する。… リドミル粒剤：吸収性で株元処理が効果大
- ③殺菌剤は予防的効果が大きいので、気象状況等見ながら計画的に散布する。… 葉の表裏に充分かかるように丁寧に散布する。



枕地を畦溝より低くすると排水良

3. 薬剤防除計画

※「同一病害に対する農薬の使用回数は2回以内」であるため、下記農薬を効果的に組み合わせる。

対照病害	農薬名称剤型	適用病害	使用時期	処理方法	ポイント
疫病	リドミル粒剤	疫病	大土寄期(4月下旬まで)	株元処理	・1株当たり、リドミル4g、ユニフォーム3g程度を株元に処理する ・処理後降雨のありそうな曇雨天時に処理すると効果的
	ユニフォーム粒剤	疫病	大土寄期(4月下旬まで)	株元散布	・リドミル粒剤と同一剤型でありいずれかの農薬しか使用できない
	オラクル顆粒水和剤	疫病	収穫10日前まで	株元灌注	・横掻2回直後に処理 1株当たり2000倍を200cc ・葉に付着すると薬害の恐れがある
	銅シン水和水剤	疫病	収穫10日前まで	茎葉散布	・葉の表裏にたっぷりと散布、心止後は10a当180ℓ散布可
	ブリザード水和水剤	うどんこ病・疫病	収穫10日前まで	茎葉散布	・葉の表裏にたっぷりと散布、心止後は10a当180ℓ散布可
	アグリマイシン100水和水剤	空洞病・野火病・疫病	収穫3日前まで	茎葉散布	・100mm程度の降雨が2~3回あった時タイミングを見て散布 ・豪雨や台風接近が予想される時(2~3日前)に散布
赤星病 灰色かび病	アミスター20フロアブル	赤星病	収穫10日前まで	茎葉散布	・横掻3回目、4回目終了後、葉の表裏にたっぷりと散布 ・梅雨入り後は、晴れ間を狙ってタイミング良く散布
	ポリオキシンAL水和水剤	赤星病・灰色かび病	収穫5日前まで	茎葉散布	・中葉系に赤星病が発生したら早めに散布
	ポリオキシンAL水溶剤	赤星病・灰色かび病	収穫5日前まで	茎葉散布	・葉の表裏にたっぷりと散布、心止後は10a当180ℓ散布可
	ベルコート水和水剤	赤星病・灰色かび病	収穫10日前まで	茎葉散布	・葉の表裏にたっぷりと散布、心止後は10a当180ℓ散布可

・発病させない予防対策が重要 ・効果的防除は病原菌を「残さない」「増やさない」「広げない」の徹底